

令和5年12月3日  
京都府防災気象講演会

# 地震への備え

大阪管区気象台気象防災部  
地震情報官 籾川博文

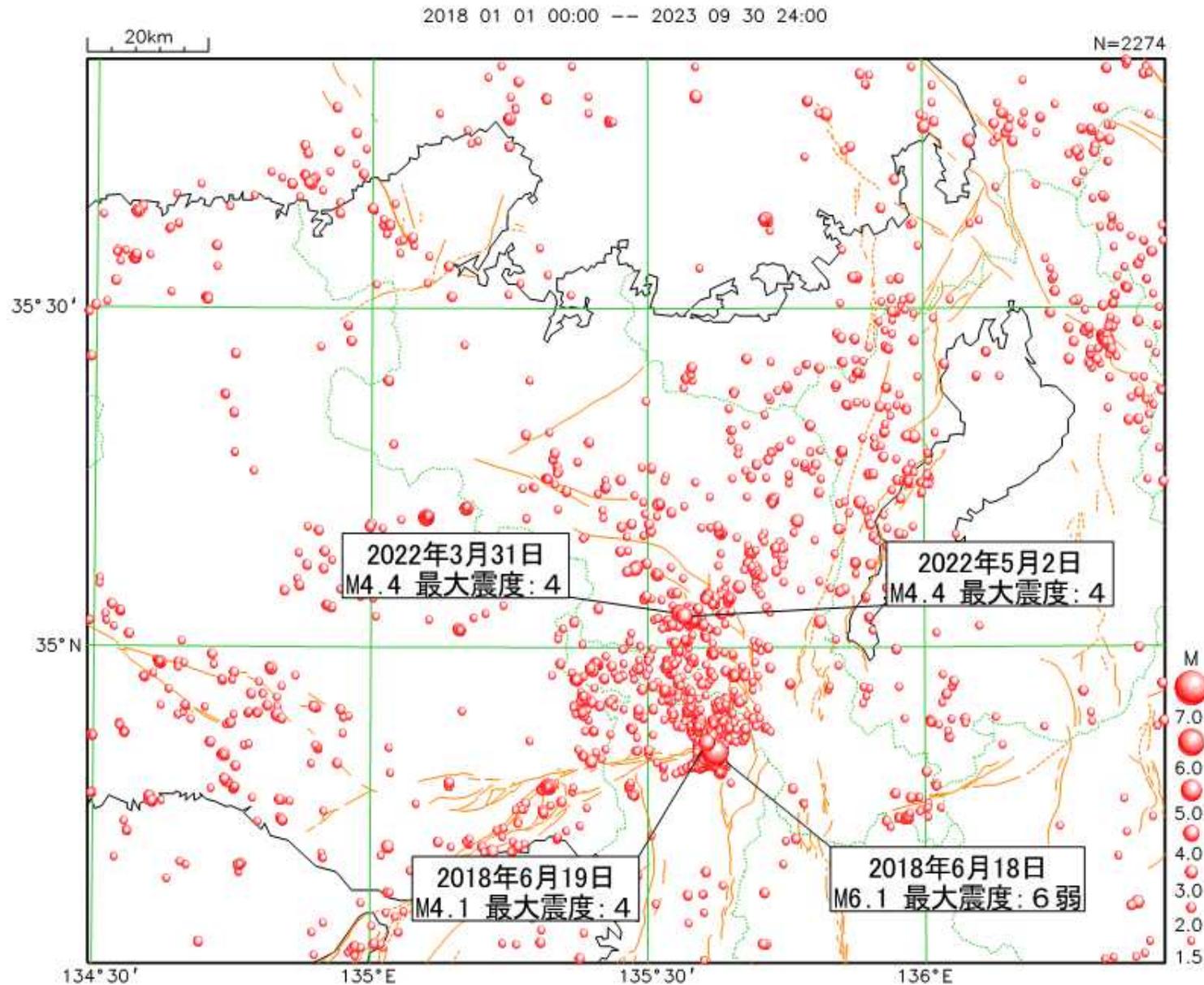
## 本日の内容

1. 京都府周辺の地震活動
2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報
3. 京都府北部日本海沿岸における津波
4. 南海トラフ沿いの巨大地震
5. 命を守るための備え

## 本日の内容

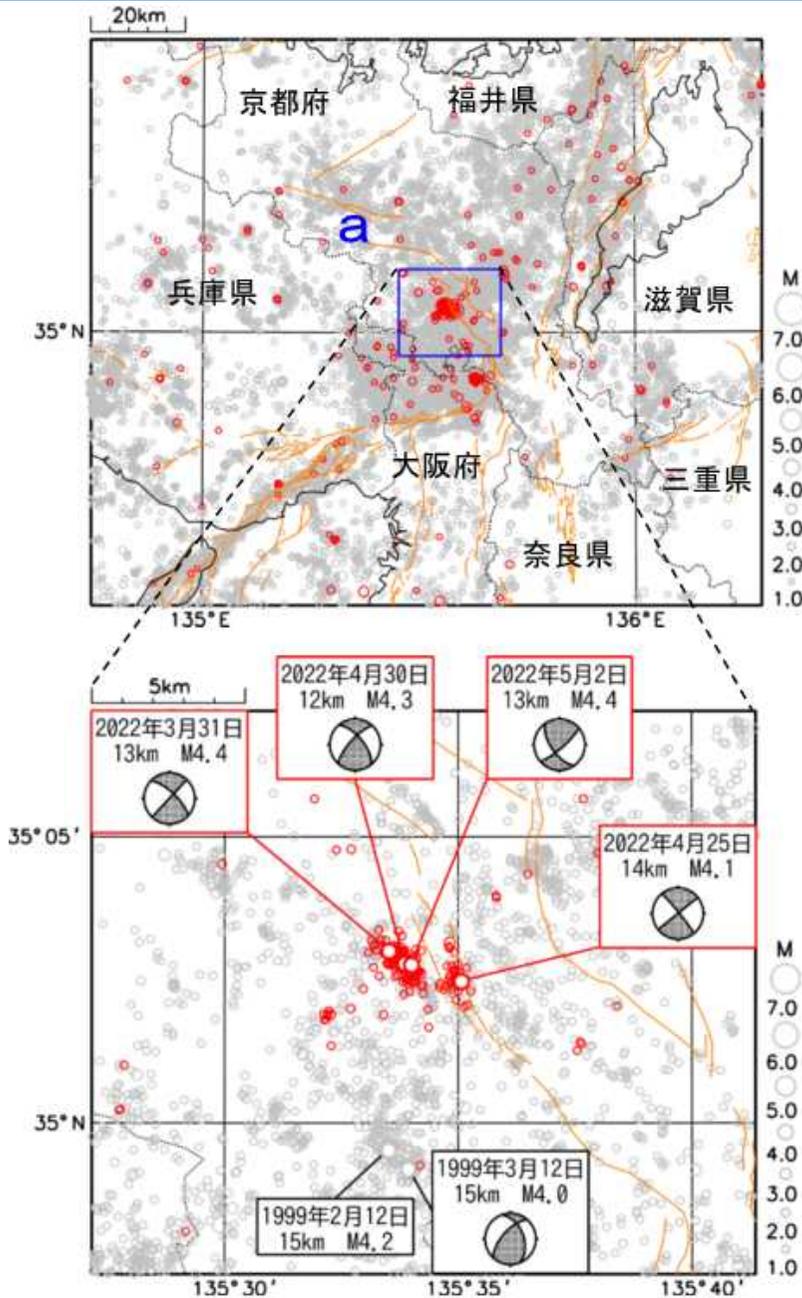
- 1. 京都府周辺の地震活動**
2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報
3. 京都府北部日本海沿岸における津波
4. 南海トラフ沿いの巨大地震
5. 命を守るための備え

# 京都府周辺の地震活動(2018年以降、 $M \geq 1.5$ )



震央分布図 (2018年1月1日~2023年9月30日、 $M \geq 1.5$ 、深さ20km以浅)  
京都府で震度4以上を観測した地震に吹き出しを付けた。  
震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

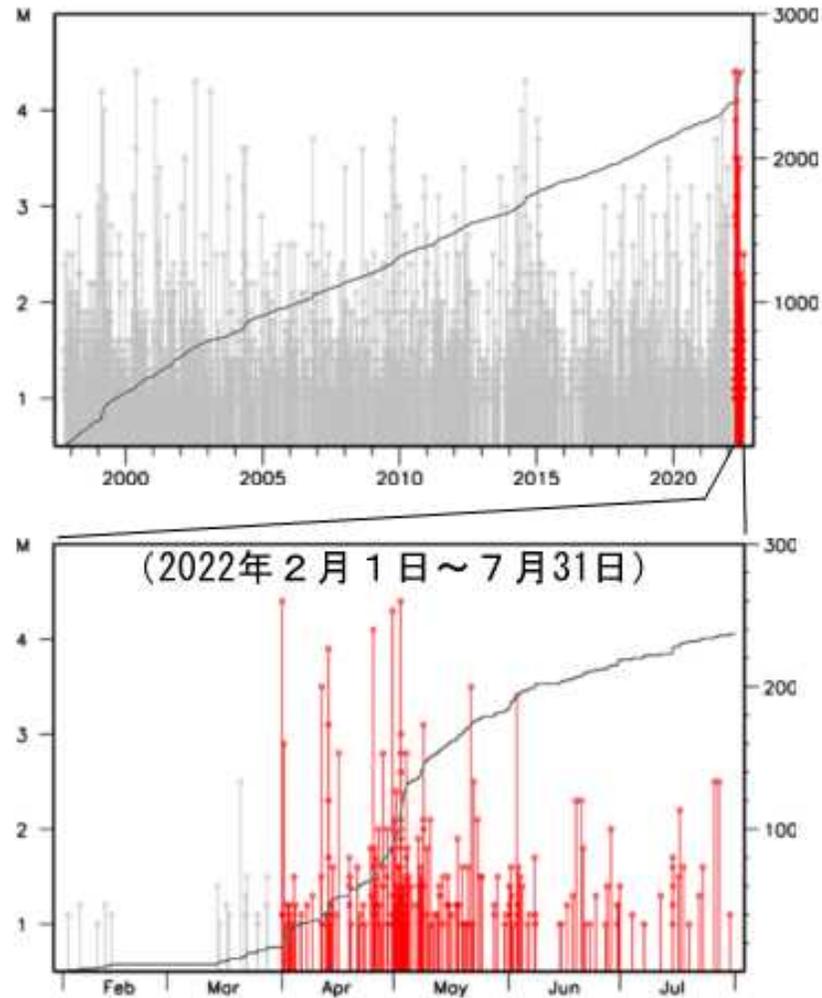
# 京都府南部の地震活動 1



震央分布図

(1997年10月1日～2022年7月31日、  
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$ )  
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示

京都府南部では、2022年3月31日頃から地震活動が活発となり、7月31日までに震度1以上を観測する地震が16回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：4回、震度1：9回）発生した。



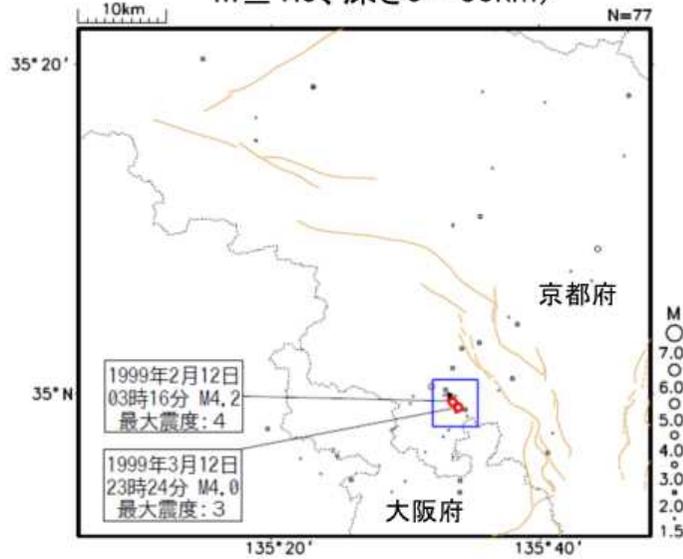
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

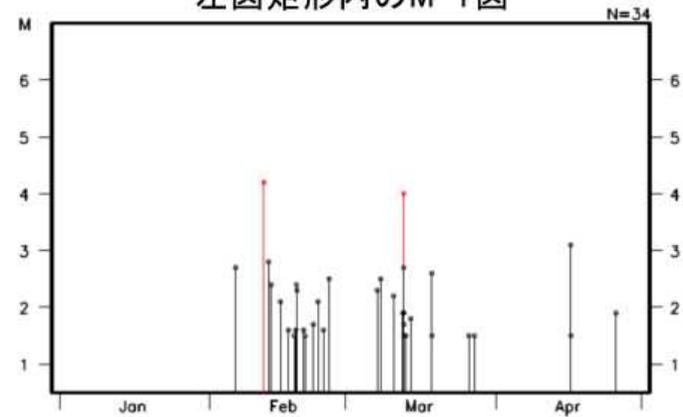
# 京都府南部の地震活動 2

震央分布図

(1999年1月1日～1999年4月30日、  
M $\geq$ 1.5、深さ0～30km)

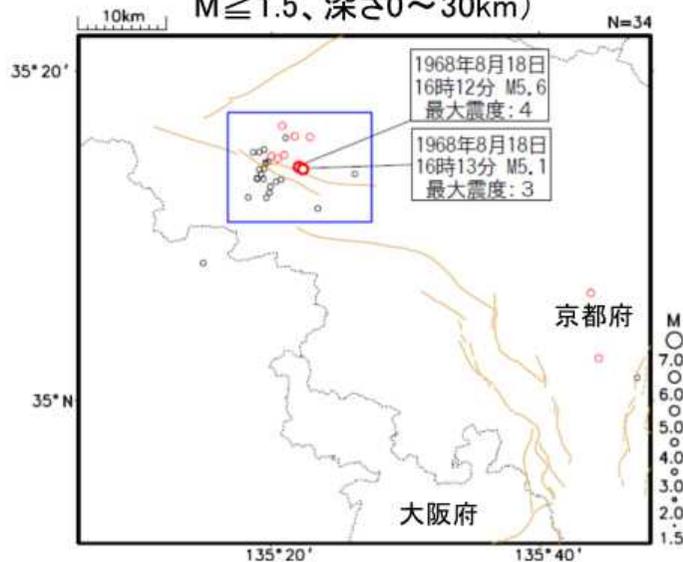


左図矩形内のM-T図

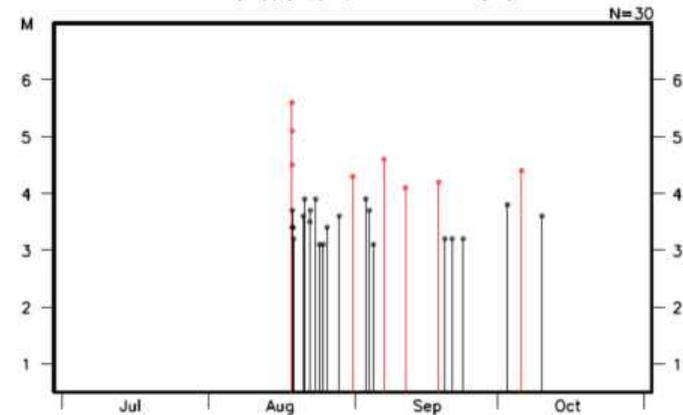


震央分布図

(1968年7月1日～1968年10月31日、  
M $\geq$ 1.5、深さ0～30km)

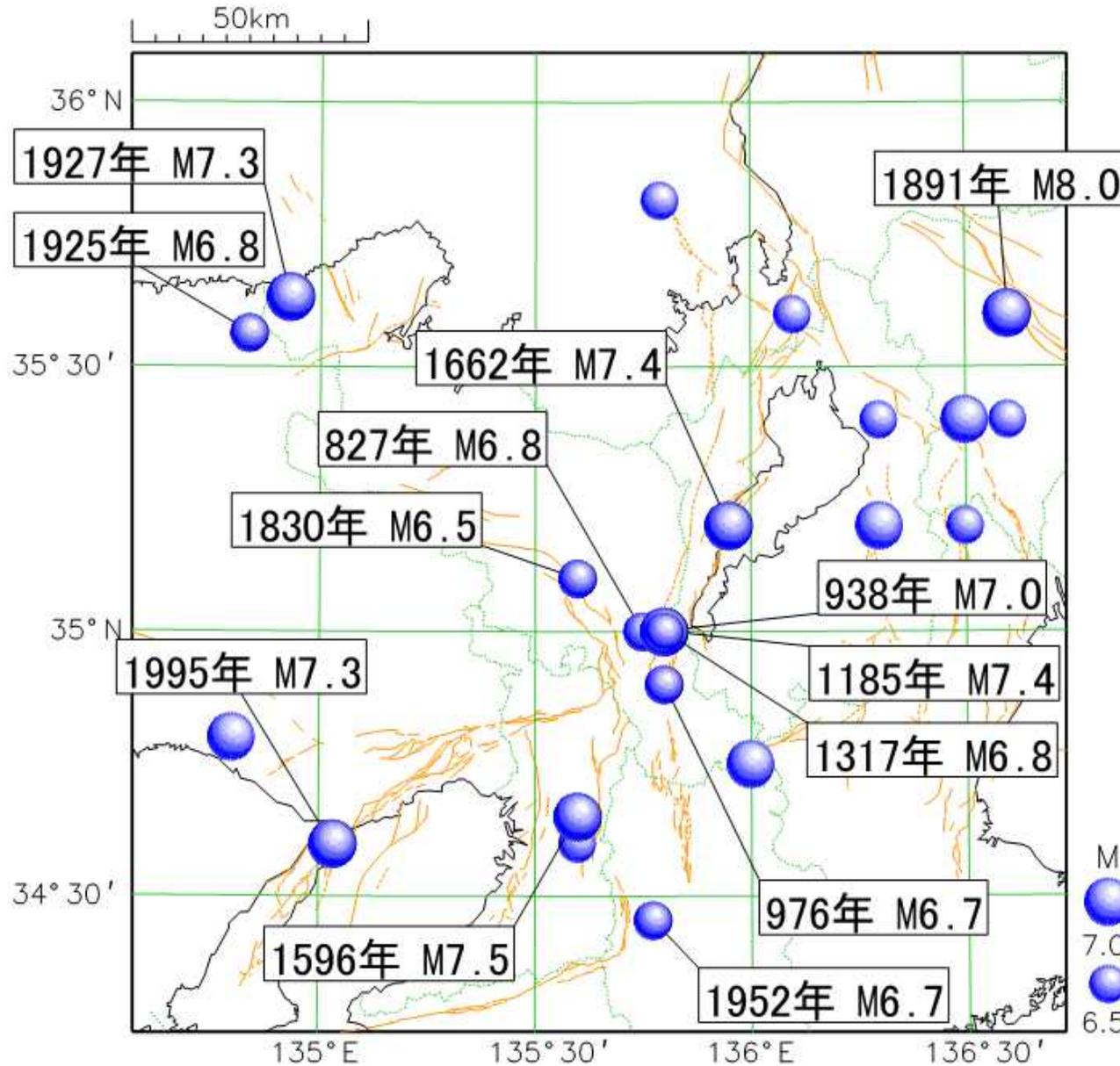


左図矩形内のM-T図



震央分布図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層帯を示す

# 京都府周辺で発生した歴史地震(M $\geq$ 6.5)の分布



震央分布図（～2023年9月30日、M $\geq$ 6.5）

京都府に被害を及ぼしたと思われる地震に吹き出しを付けた。

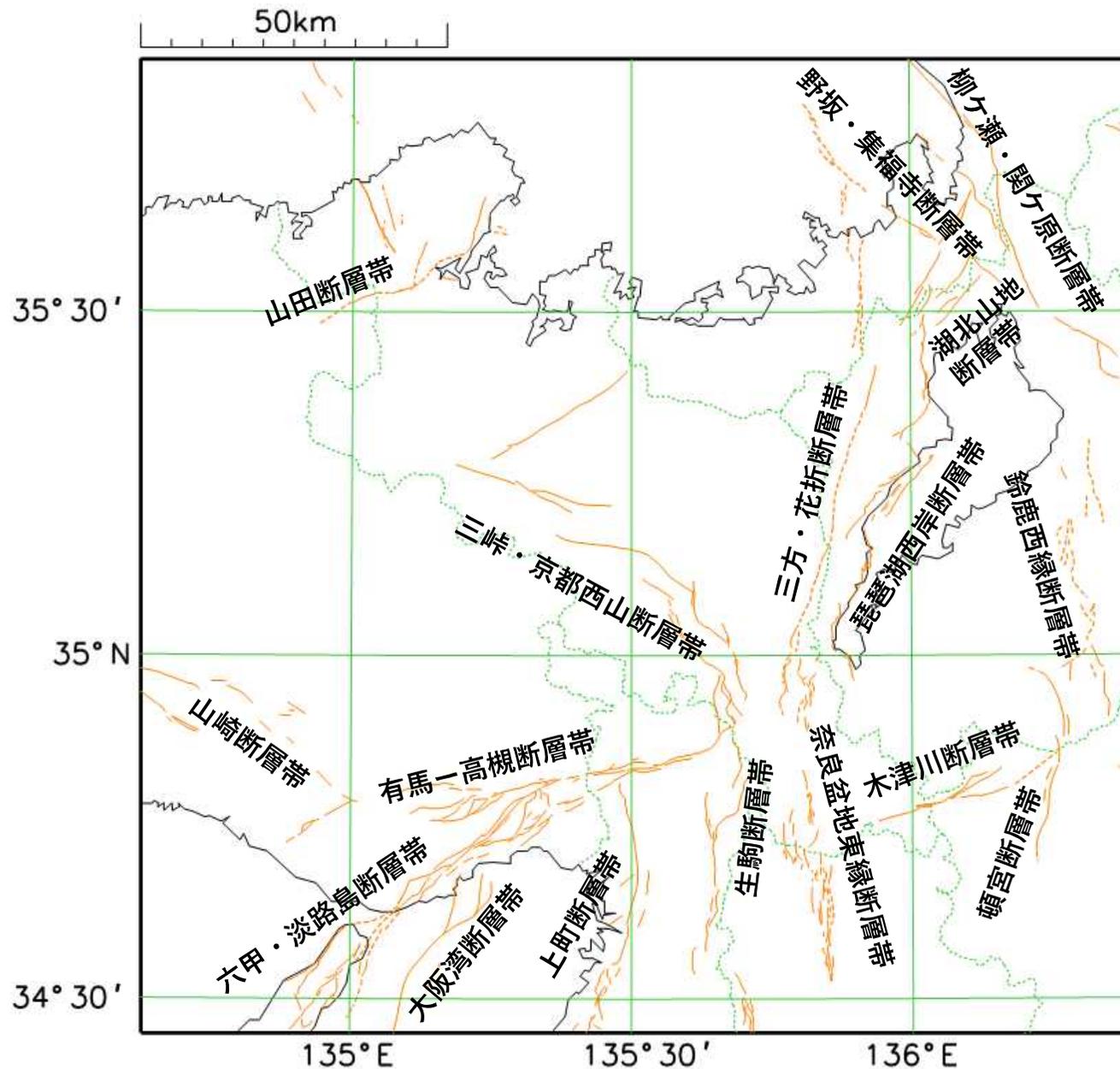
震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

## 京都府に被害を及ぼした主な地震とその被害

西暦（和暦）	M	京都府内の主な被害
827(天長4).8.11	6.5～7.0	家屋倒潰多数
887(仁和3).8.26 仁和地震	8.0～8.5	京都で家屋倒壊多く、圧死者多数。 (南海トラフ沿いの巨大地震)
938(天慶1).5.22	7.0	宮中で死者4人。家屋全壊多数。
976(貞元1).7.22	6.7以上	死者50人以上、家屋全壊多数。
1185(文治1).8.13	7.4	白河辺で被害大きく、死者、家屋倒壊多数。
1317(文保1).2.24	6.5～7.0	白河辺で、ことごとく住家全壊し、死者5人。
1449(宝徳1).5.13	5 3/4～6.5	洛中の堂塔などに被害多く、死者多数。
1596(慶長 1).9.5 慶長伏見地震	7 1/2	三条から伏見の間で被害が最も大きく、死者、家屋倒壊多数。伏見城では、天守の大破などにより、圧死者約600人。
1662(寛文2).6.16	7 1/4～7.6	京都で死者200人余、家屋倒壊1,000棟。
1830(天保1).8.19	6.5	京都で死者280人、負傷者1,300人。
1891(明治24).10.28 濃尾地震	8.0	家屋全壊13棟。
1925(大正14).5.23 北但馬地震	6.8	北部（久美浜）で、死者7人、負傷者30人、住家全壊20棟。
1927(昭和2).3.7 北丹後地震	7.3	北部で甚大な被害。死者2,898人、負傷者7,595人、住家全壊4,899棟、同焼失2,019棟。
1952(昭和27).7.18 吉野地震	6.7	死者1人、負傷者20人、住家全壊5棟。
1995(平成7).1.17 兵庫県南部地震	7.3	死者1人、負傷者49人、住家全壊3棟、住家半壊6棟。

# 京都府周辺の主な活断層の分布

地震調査研究推進本部の長期評価による活断層



長期評価での発生地震の予想規模はマグニチュード7を超えている。琵琶湖西岸断層帯（北部）、奈良盆地東縁断層帯、上町断層帯で今後30年以内の地震が発生する確率が高いランクとして評価がなされている。ただし、ランクが低くとも活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

## 本日の内容

1. 京都府周辺の地震活動
- 2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報**
3. 京都府北部日本海沿岸における津波
4. 南海トラフ沿いの巨大地震
5. 命を守るための備え

# 地震津波情報の流れ(陸域の浅い地震の場合)

## 地震発生

数秒後～

### 緊急地震速報

最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3以上と予想された場合、震度4以上または長周期地震動階級3以上の地域を発表

身の安全を確保

約90秒後～

### 震度速報

震度3以上を観測した地域名と地震の揺れの検知時刻を速報

約3分後～

### 震源に関する情報

震源(地震発生場所)・規模(マグニチュード)を発表

約5分後～

### 震源・震度情報

震源や規模、震度1以上を観測した地点と観測した震度を発表  
震度3以上を観測した地域名と市町村毎の観測した震度を発表  
震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点の市町村・地点名を発表

防災対応初動の立ち上がり被害状況の把握

約10分後～

### 長周期地震動に関する観測情報

地域ごとの震度の最大値・長周期地震動階級の最大値、個別の観測点毎の長周期地震動階級や長周期地震動の周期別階級等を発表

約15分後～

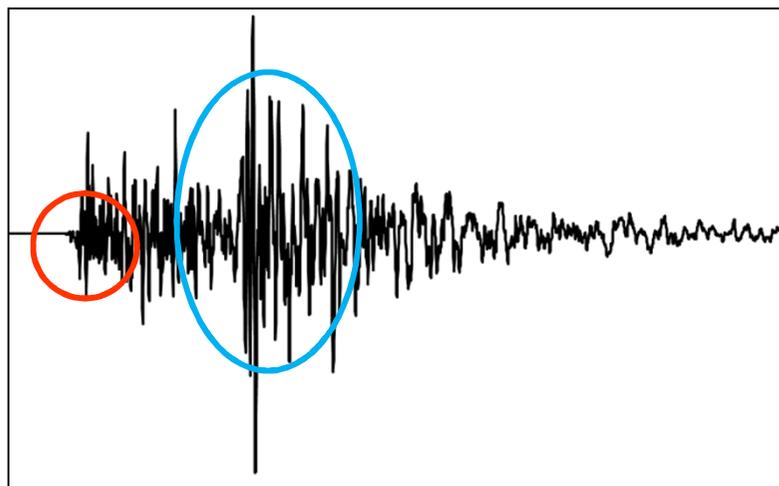
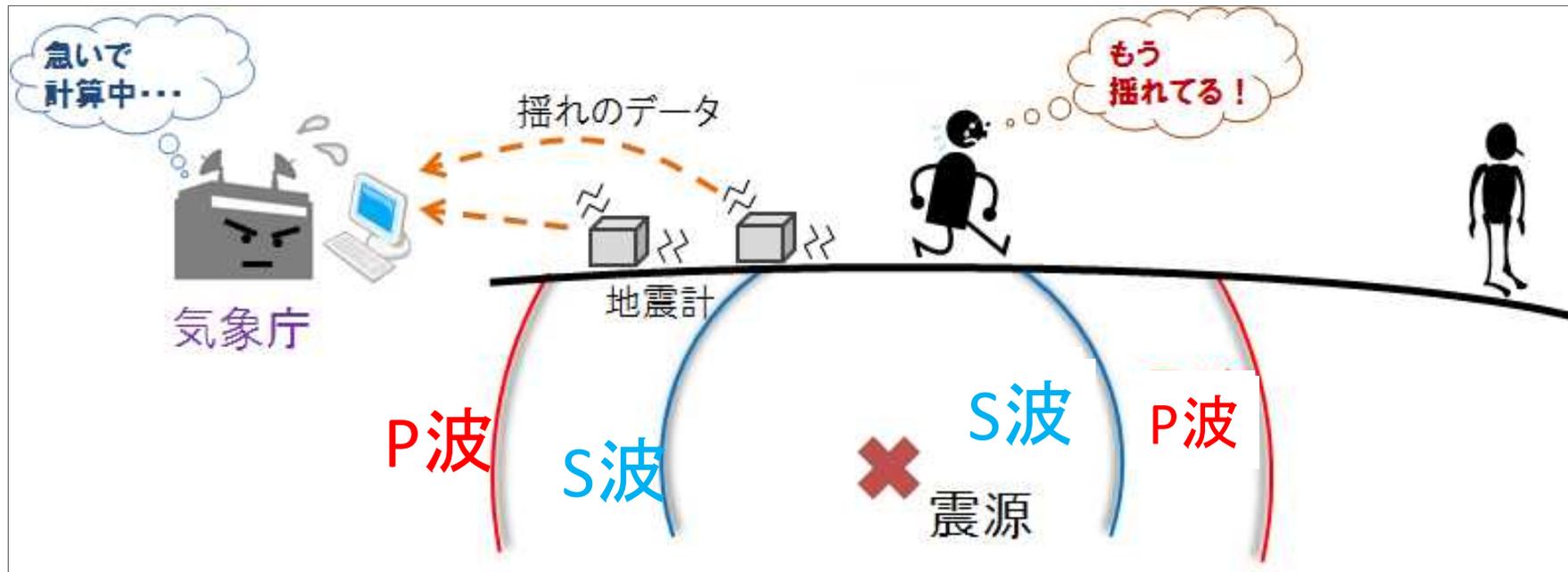
### 推計震度分布図

観測した各地の震度データをもとに、250m四方ごとに推計した震度(震度4以上)を図情報として発表

被害状況の調査

# 緊急地震速報(陸域の浅い地震の場合)

「緊急地震速報」は、震源に近い地震計でP波を検知、強い揺れS波が来ることを知らせる情報。

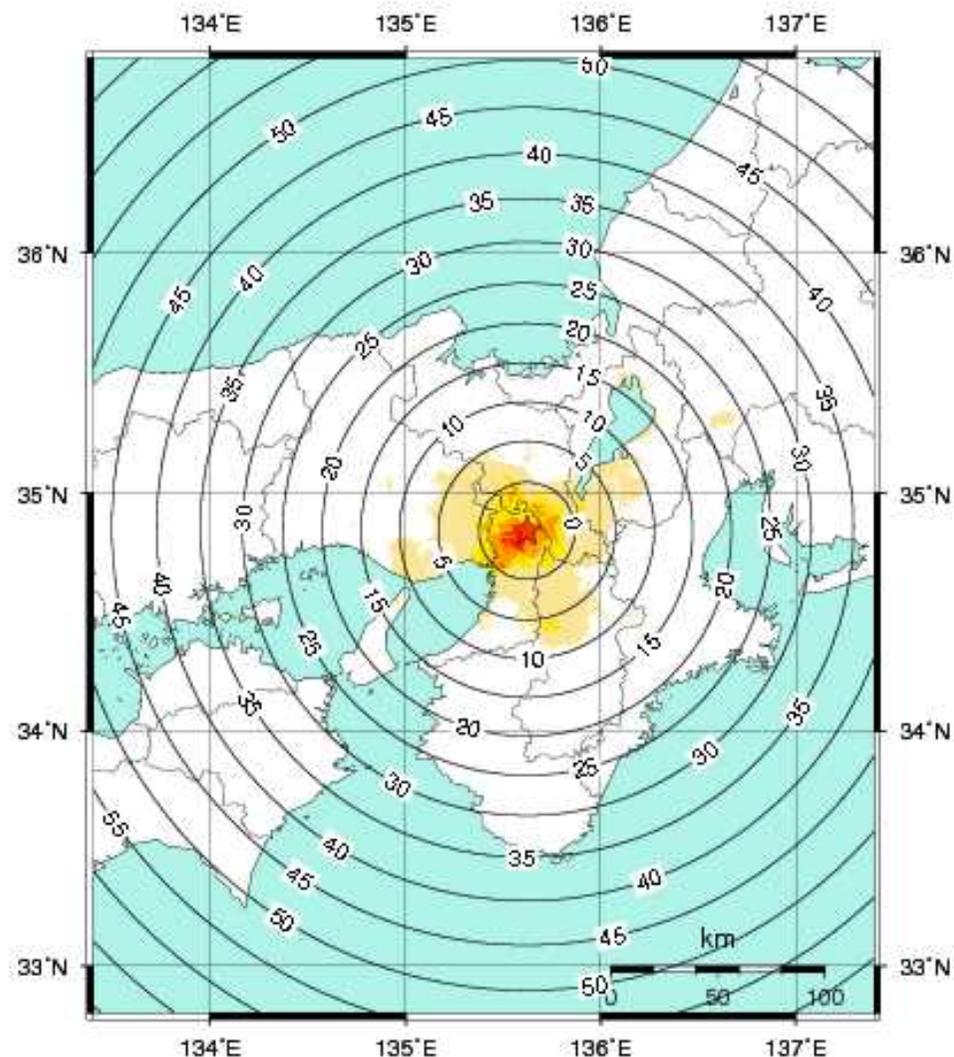


震源に近い場所では、P波のあとすぐにS波が来てしまうため、緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わない。

P波：早いが弱い揺れ

S波：遅いが強い揺れ

# 大阪府北部の地震のときの緊急地震速報



緊急地震速報は震源からある程度離れた場所では強い揺れの到達に間に合うこともある。

緊急地震速報が鳴ったら揺れを感じたら

周囲の状況に応じて身の安全を確保

緊急地震速報の主要動到達までの時間と推計震度分布図（大阪府北部の地震）

しゅうい じゅうきょう おう  
周囲の状況に応じて

さんきゅうじ しんそくほう み き  
緊急地震速報を見聞きしたら...  
(地震の揺れを感じなくても)

あわてず、  
まず身の安全を!!

じしん り かん  
地震の揺れを感じたら...  
(緊急地震速報がなくても)

かてい  
家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



てつどう  
鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



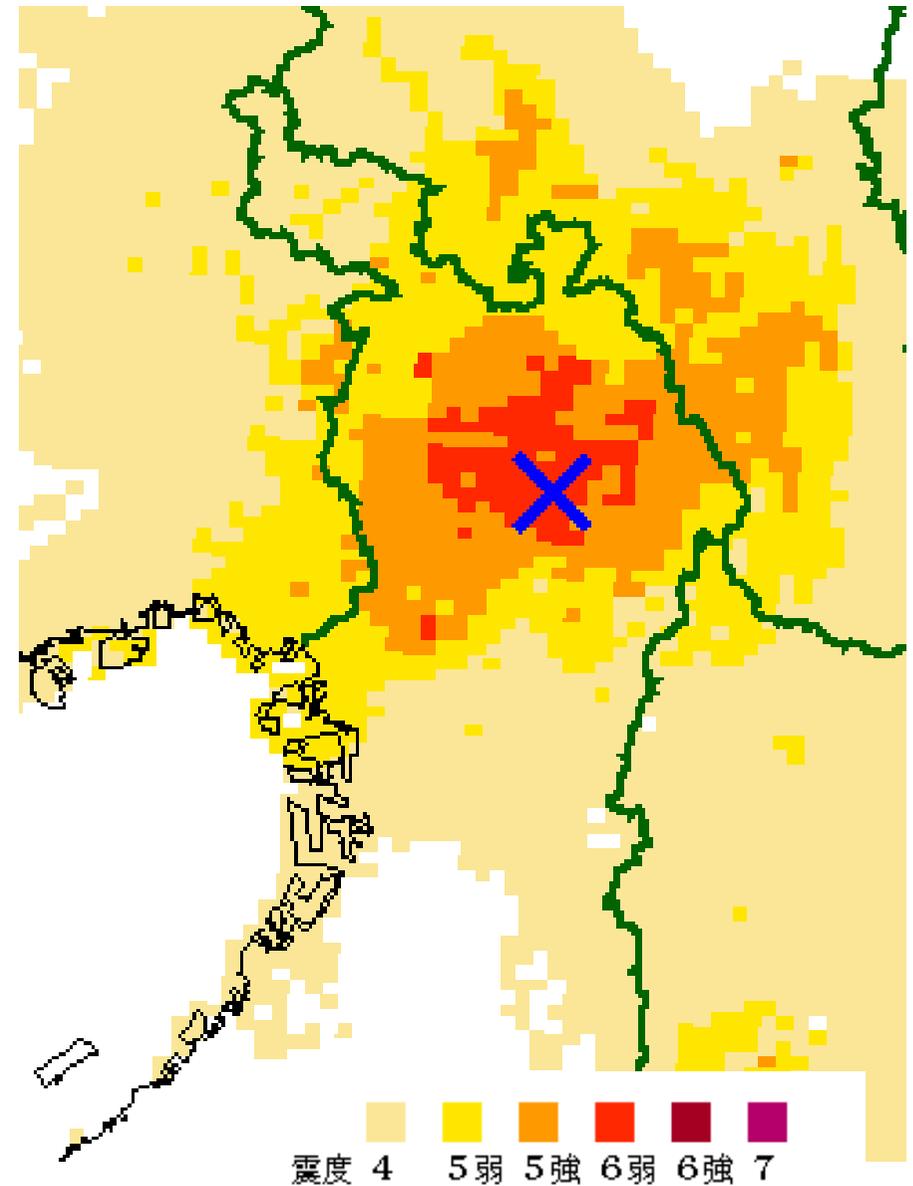
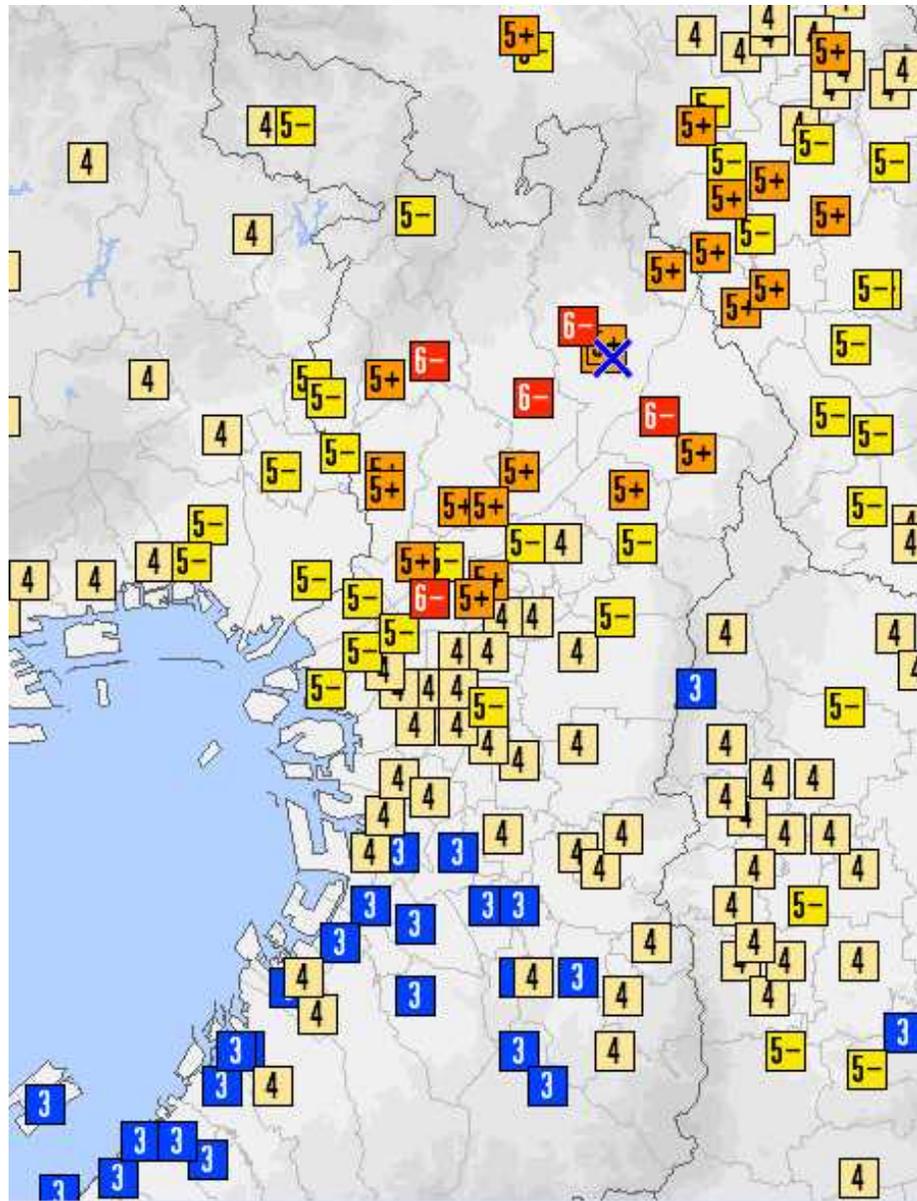
おくがい まち  
屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



# 「各地の震度に関する情報」と「推計震度分布図」 (大阪府北部の地震)

震度観測点での観測震度（左図）、観測震度と地盤情報から推計した面的震度分布（右図）。初動の立ち上がりや被害状況の把握・調査に活用。



# 震度階級

✓ 気象庁の震度階級は震度0～震度7の10階級

## ● 震度と揺れなどの状況

**震度 0**

- 人は揺れを感じない。



**震度 4**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



**震度 6弱**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。



耐震性が高い      耐震性が低い

**震度 1**

- 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



**震度 5弱**

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



**震度 6強**

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い      耐震性が低い

**震度 2**

- 屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



**震度 5強**

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



**震度 7**

- 耐震性の低い木造家屋は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



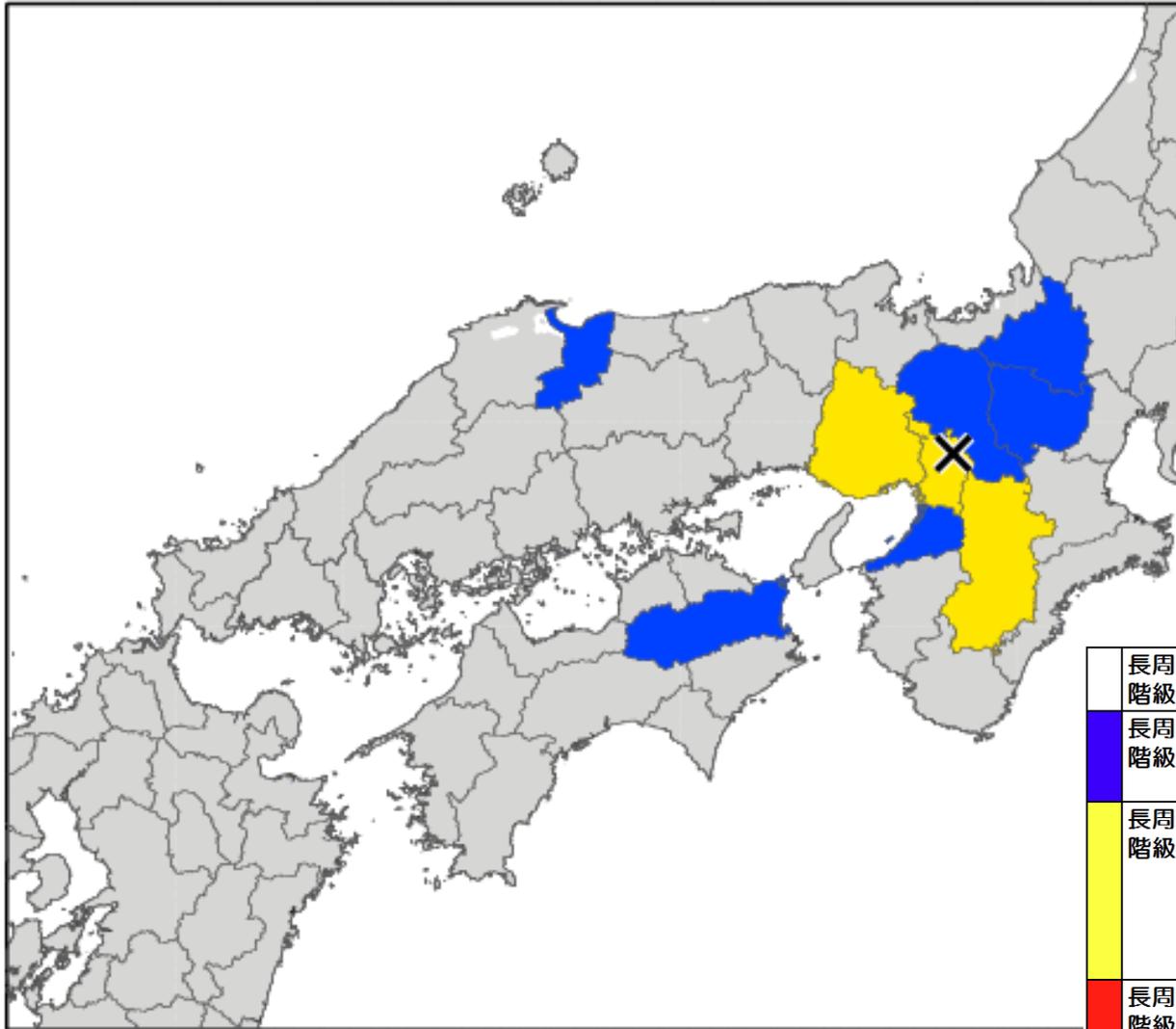
耐震性が高い      耐震性が低い

**震度 3**

- 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。



# 長周期地震動に関する観測情報(大阪府北部の地震)

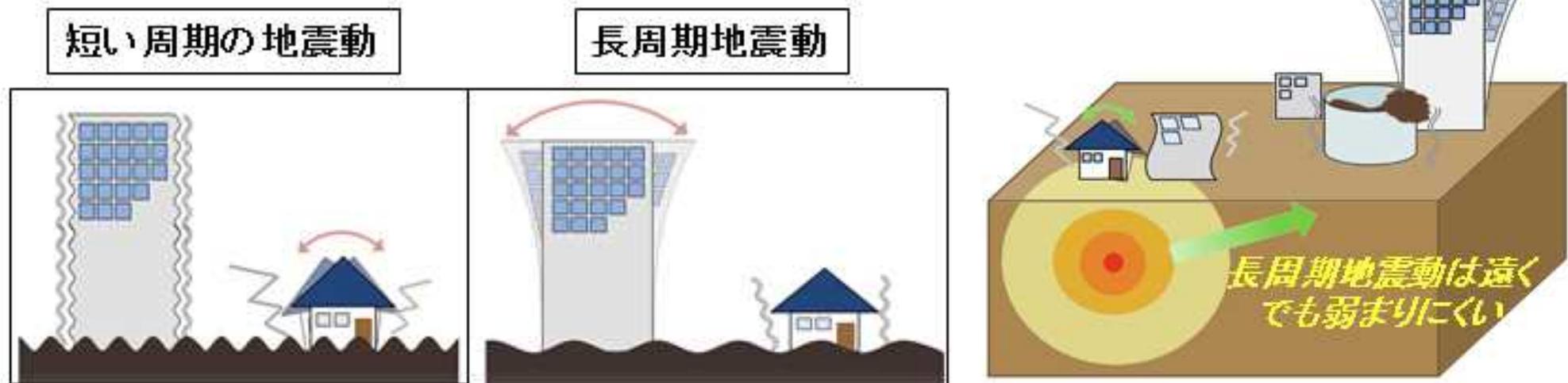


長周期地震動階級の凡例: ■ 階級1 ■ 階級2 ■ 階級3 ■ 階級4

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況	備考
長周期地震動階級1	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	—
長周期地震動階級2	室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	キャスター付き什器がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	—
長周期地震動階級3	立っていることが困難になる。	キャスター付き什器が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
長周期地震動階級4	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。	キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

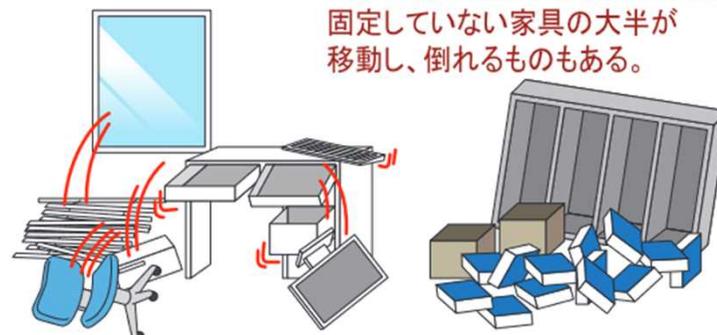
# 長周期地震動とは

- 長周期地震動とは周期の長いゆっくりとした大きな揺れ（地震動）のこと。
- 地震波の周期と建物の固有周期（固有の揺れやすい周期）が一致すると共振して建物が大きく揺れる。
- 高層ビルの固有周期は低い建物の周期に比べると長いため、長周期の波と「共振」しやすく、共振すると高層ビルは長時間にわたり大きく揺れる。また、高層階の方がより大きく揺れる傾向がある。
- 長周期地震動により高層ビルが大きく長く揺れることで、室内の家具や什器が転倒・移動したり、エレベーターが故障することがある。
- マグニチュードが大きい地震ほど長い周期の揺れが大きくなり、長い周期の揺れは短い周期の波に比べて減衰しにくいいため遠くまで伝わる。



# 長周期地震動階級

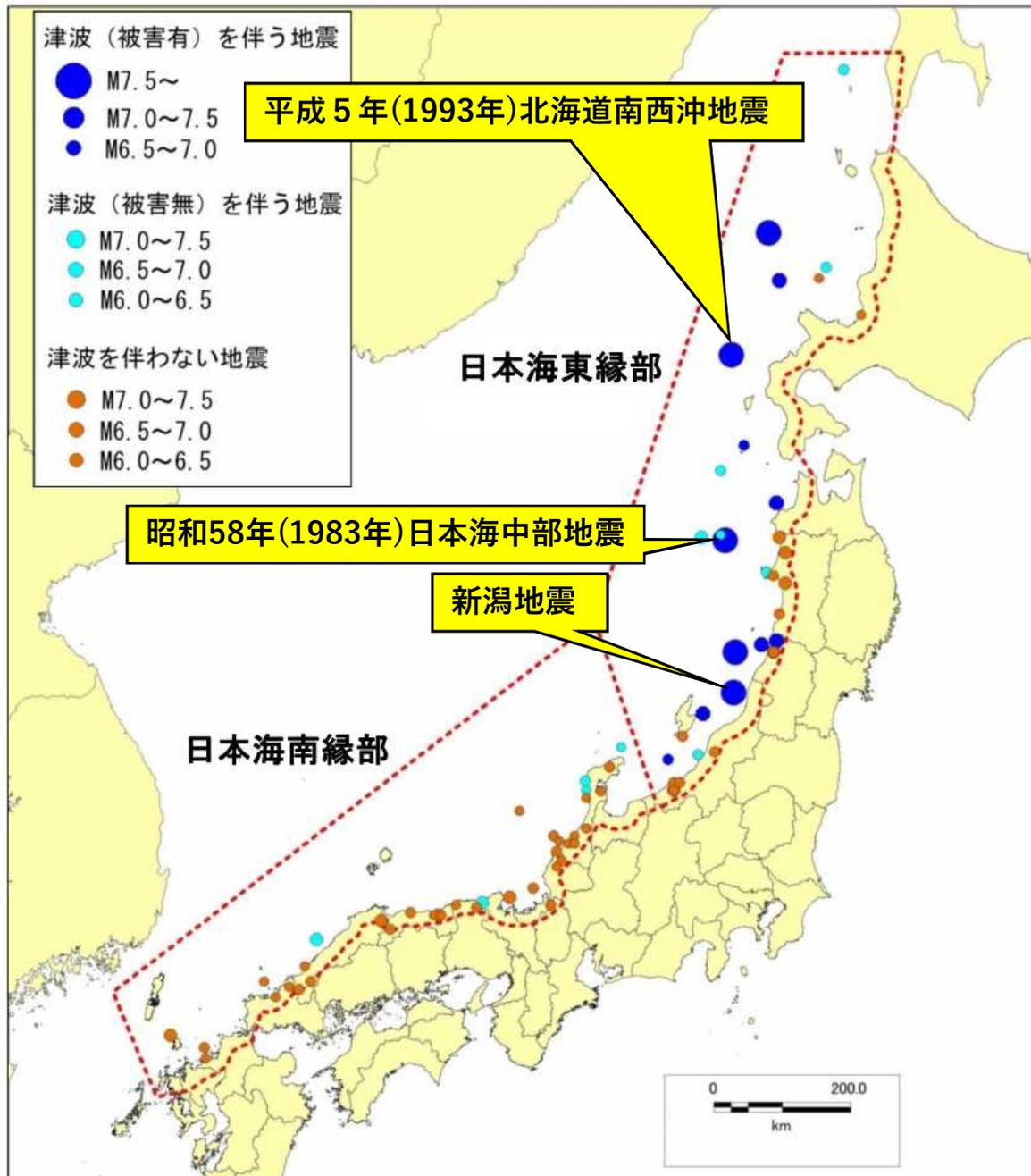
高層ビル内における、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒の被害の程度から**4つの段階**に区分した揺れの大きさの指標

<h2>階級1</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。</li><li>●ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。</li></ul> 	<h2>階級2</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。</li><li>●キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。</li></ul> 
<h2>階級3</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●立っていることが困難になる。</li><li>●キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</li></ul> 	<h2>階級4</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>●立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。</li><li>●キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。</li></ul> 

## 本日の内容

1. 京都府周辺の地震活動
2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報
- 3. 京都府北部日本海沿岸における津波**
4. 南海トラフ沿いの巨大地震
5. 命を守るための備え

# 沿岸部を含む日本海における歴史地震(M $\geq$ 6)の分布



## 近年京都府北部で津波を観測した地震

- **新潟地震**  
1964年(昭和39年)6月16日13時01分  
新潟県沖 M7.5
- **昭和58年(1983年)日本海中部地震**  
1983年(昭和58年)5月26日11時59分  
秋田県沖 M7.7
- **平成5年(1993年)北海道南西沖地震**  
1993年(平成5年)7月12日22時17分  
北海道南西沖 M7.8

京都府では日本海東縁部で発生する地震で津波を観測している。  
1927年に発生した北丹後地震(M7.3)では、円山川河口の津居山港で高さ30cmの津波を観測した記録がある。

# 京都府で観測された津波の高さ(検潮所)

## 1964年新潟地震

検潮所	最大波高 (最大全振幅)
舞鶴 (東)	57cm

## 1983年日本海中部地震

検潮所	最大の高さ	最大波高 (最大全振幅)
舞鶴 (東)	41cm	44cm
舞鶴 (西)	53cm	69cm
宮津	59cm	96cm

## 1993年北海道南西沖地震

検潮所	最大の高さ	最大波高 (最大全振幅)
舞鶴 (東)	51cm	70cm
舞鶴 (西)	45cm	82cm

※所属機関

- 舞鶴 (東) : 気象庁
- 舞鶴 (西) : 海上保安庁
- 宮津 : 関西電力

# 京都府で観測された津波の高さ(現地観測)

## 1983年日本海中部地震

地点 (測定場所)		最大の高さ	備考
舞鶴市	田井	1.0m	岸壁高さより推定
	野原	2.3m	浸水跡実測
	経ヶ岬	25cm	波浪計
	竹野	0.1m	聞き取り
網野町	浜詰	1.5m	聞き取り
	旭	1.6m	聞き取り

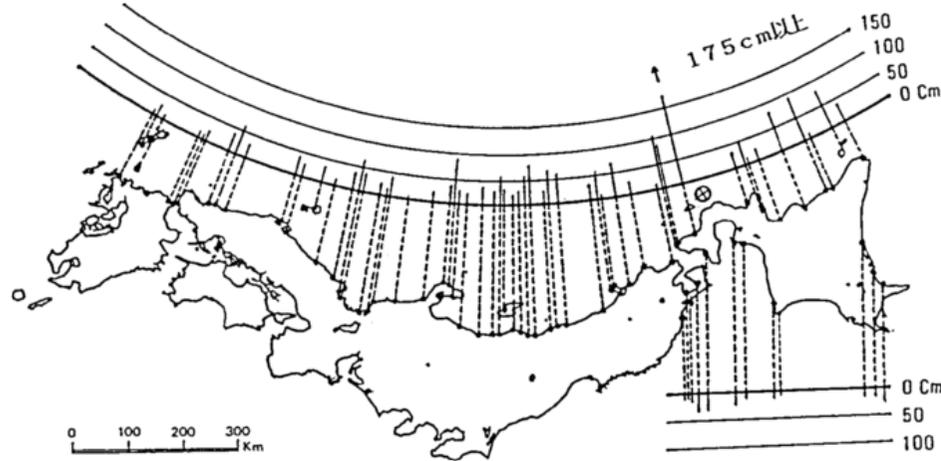
床上浸水 3 棟、床下浸水10棟、  
船舶沈没 7 隻、船舶破損18隻  
等の被害あり

## 1993年北海道南西沖地震

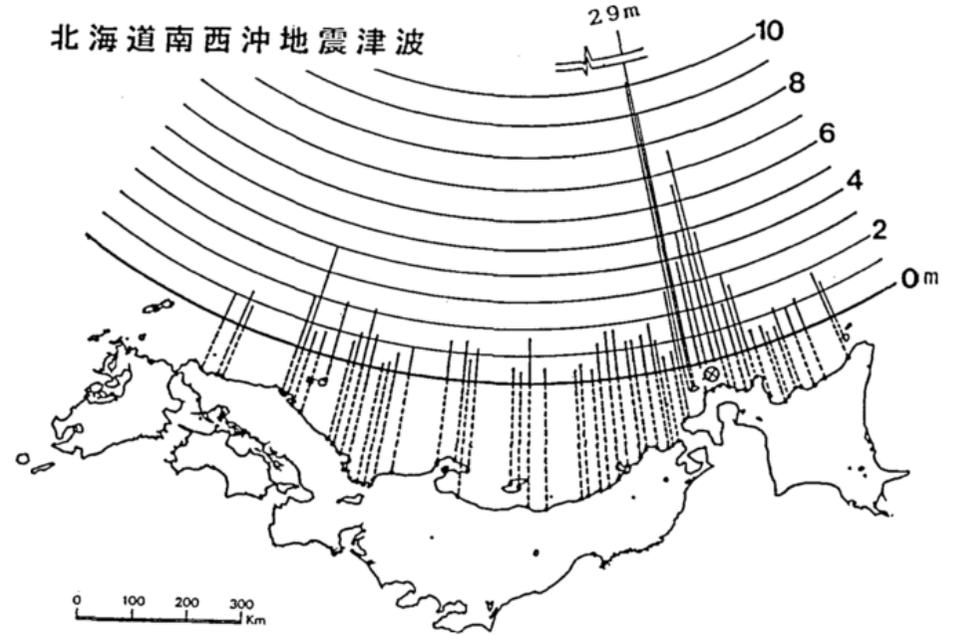
地点 (測定場所)	最大の高さ	備考 (被害等)
舞鶴市小橋	約 1 m	床下浸水14棟、小型船舶転覆・破損10隻、 道路冠水 9 ヲ所
宮津市	約80cm	大手川河口で逆流、被害なし
伊根町	約90cm	船屋への入船困難、定置網破損 8 ヲ所
丹後町	約 1 m	小型漁船破損 1 隻

# 日本海中部地震と北海道南西沖地震の津波比較

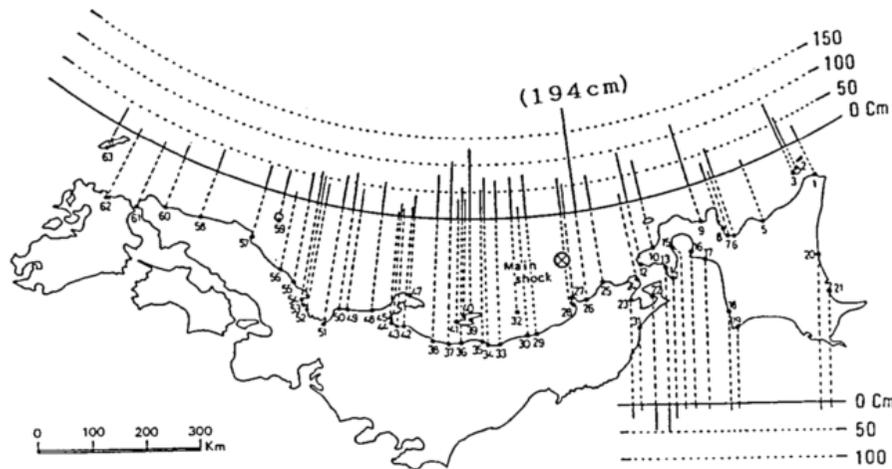
北海道南西沖地震津波



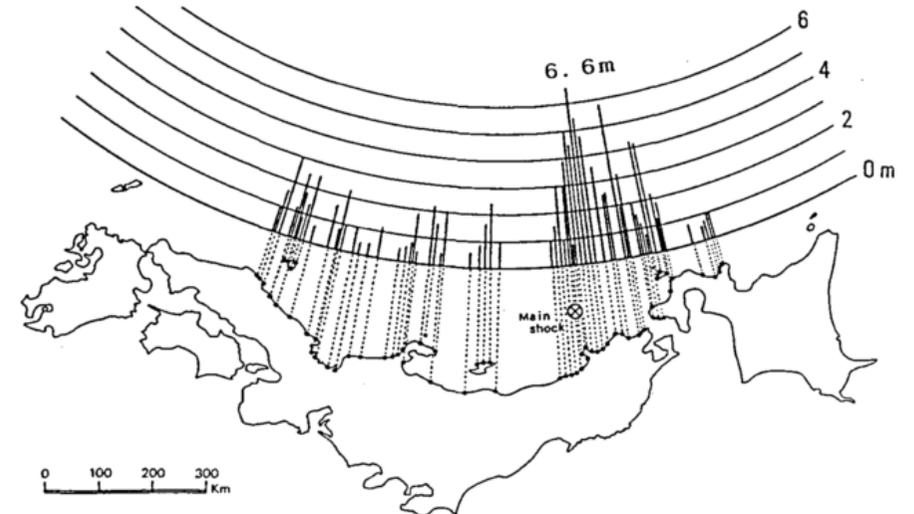
北海道南西沖地震津波



日本海中部地震津波



日本海中部地震津波



検潮記録による各地の津波の最大の高さ

現地調査による各地の津波の最大の高さ

# 津波警報・注意報

予想される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動	避難のポイント
数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m 超 10m < 予想される津波の 最大波の高さ	<p><b>巨大な津波が襲い</b>、木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、<b>ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難</b>してください。</p> 	<p>震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い<b>揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。</b></p>
	10m 5m < 予想される津波の ≤ 10m 最大波の高さ		
	5m 3m < 予想される津波の ≤ 5m 最大波の高さ		
津波警報	3m 1m < 予想される ≤ 3m 津波の最大波の高さ	<p><b>標高の低いところでは津波が襲い</b>、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、<b>ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難</b>してください。</p>	<p>津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。</p>
津波注意報	1m 20cm ≤ 予想される津波の ≤ 1m 最大波の高さ	<p>海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。<b>海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。</b></p> 	<p>津波は長い時間<b>繰り返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。</b></p>

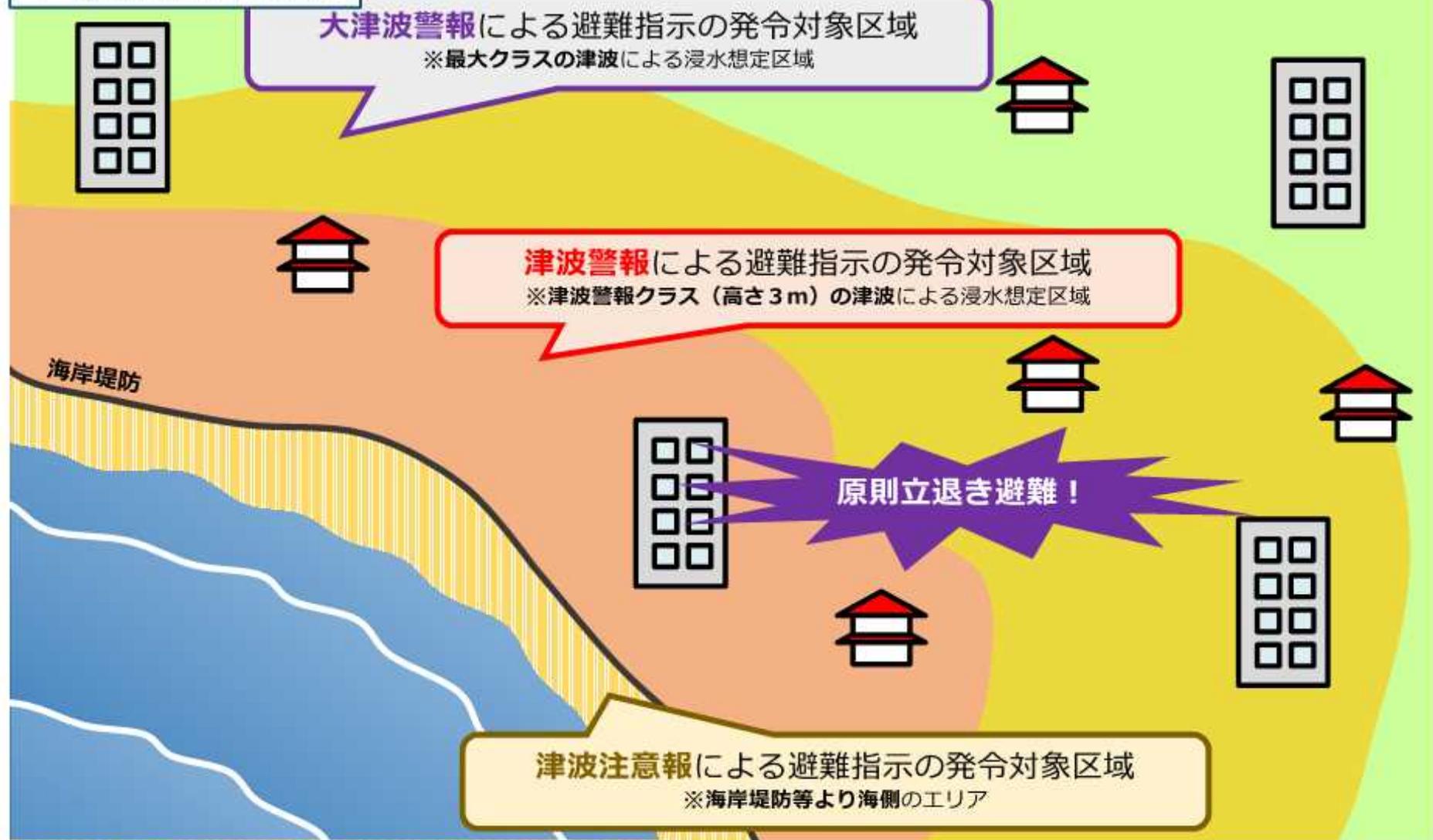
- 日本海東縁部で発生した地震では、京都府北部では地震による揺れを感じない場合が多い。
- 津波警報・注意報が発表されたら地震による揺れを感じてなくともすぐ避難。

## 津波被害と浸水深との関係（目安）

- 0.3m以上：避難行動がとれなく（動くことができなく）なる
- 1 m以上：津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
- 2 m以上：木造家屋の半数が全壊する（注：3 m以上でほとんどが全壊する）
- 5 m以上：2階建ての建物（或いは2階部分まで）が水没する
- 10m以上：3階建ての建物（或いは3階部分まで）が水没する

# 津波時における避難指示の発令対象区域

## 津波浸水想定



「避難情報に関するガイドライン」より

# 津波フラッグ ～津波警報等の視覚的伝達手段～

## 津波フラッグは避難の合図

海から離れて  
高いところへ!

いつ使われる?	どこで使われる?	見かけたら?
<b>津波警報<sup>※</sup>などの発表時</b> ※大津波警報・津波警報・津波注意報	<b>海水浴場など</b> 波音や風で音が聞き取りづらいため、旗で視覚的に伝達	<b>高いところへにげて!</b> すぐに海から離れ、高台や津波避難タワーなどへ避難を

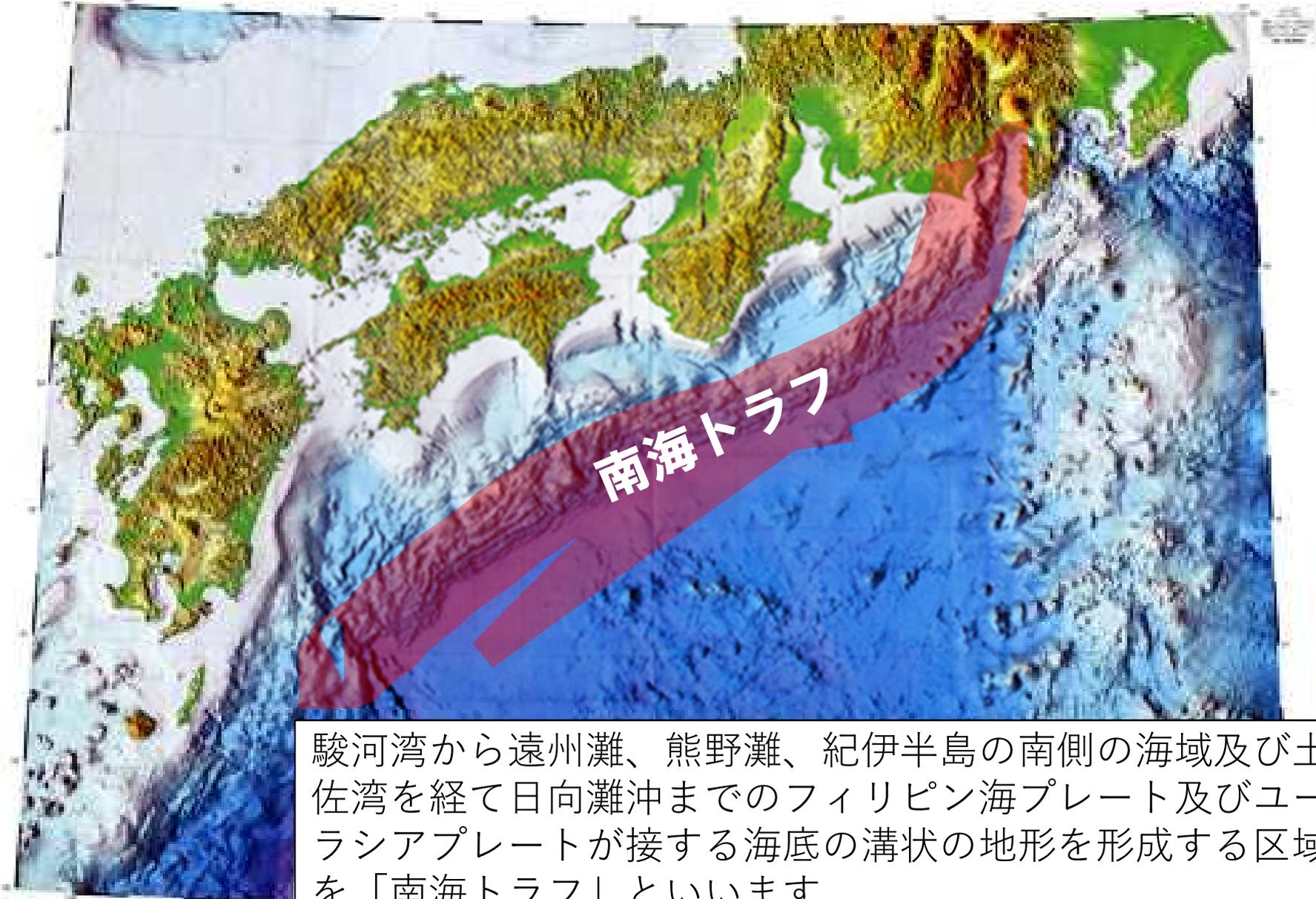
監修：気象庁 制作：Yahoo!ニュース

聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせする手段。  
海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら速やかに避難を開始。

## 本日の内容

1. 京都府周辺の地震活動
2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報
3. 京都府北部日本海沿岸における津波
- 4. 南海トラフ沿いの巨大地震**
5. 命を守るための備え

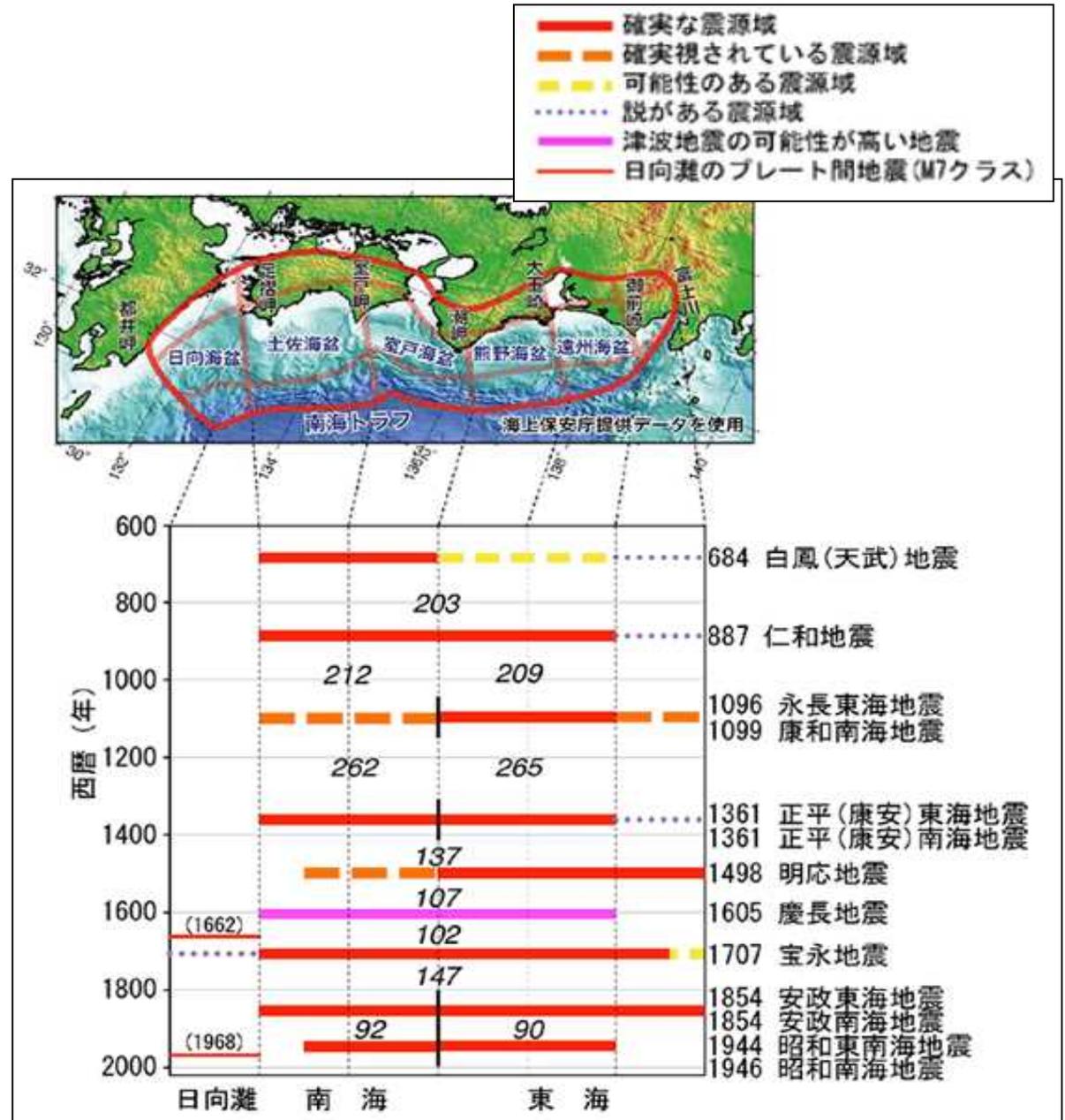
# 南海トラフとは



駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。

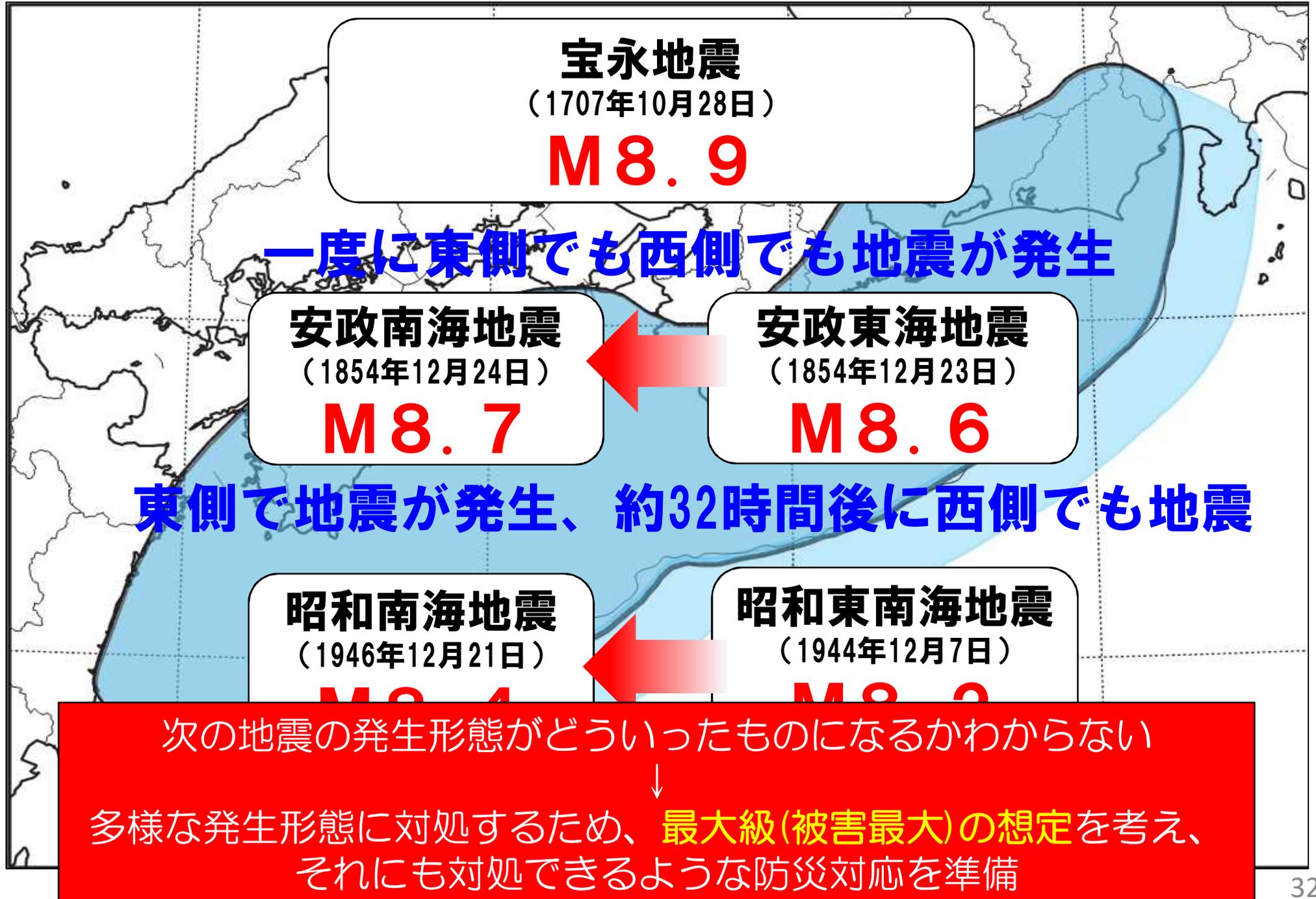
# 南海トラフ地震

- フィリピン海プレートが日本列島下へ沈み込むことに伴って繰り返し発生してきた**海溝型巨大地震** ( $M \geq 8$ )
- 駿河湾から四国沖にかけての駿河・南海トラフ沿いで**100~150年程**の間隔で繰り返し発生
- 直近の地震（昭和の地震）から**70年以上**が経過しており、次の大規模地震の**切迫性が高い**と考えられている



「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」（地震調査研究推進本部）

# 南海トラフ地震の発生形態の多様性



# 南海トラフ地震の切迫性(地震調査研究推進本部の長期評価から)

算定基準日 令和5年(2023年)1月1日

領域	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	我が国の海溝型地震の相対的評価(ランク)	地震発生確率(30年以内)	地震後経過率	平均活動間隔
					最新活動時期
南海トラフ	M8~9級	Ⅲ	70~80%	0.87	(過去3地震に対する時間予測モデルから)次回までの標準的な値 $\bar{T}=88.2$ 年
					$t - t_{last} = 77.0$ 年

確率が非常に高く、  
30年以内に  
ほぼ発生(切迫!)

海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率

26%以上	: 「Ⅲランク」 (高い)
3%~26%未満	: 「Ⅱランク」 (やや高い)
3%未満	: 「Ⅰランク」

## 長期評価が高くなるポイント

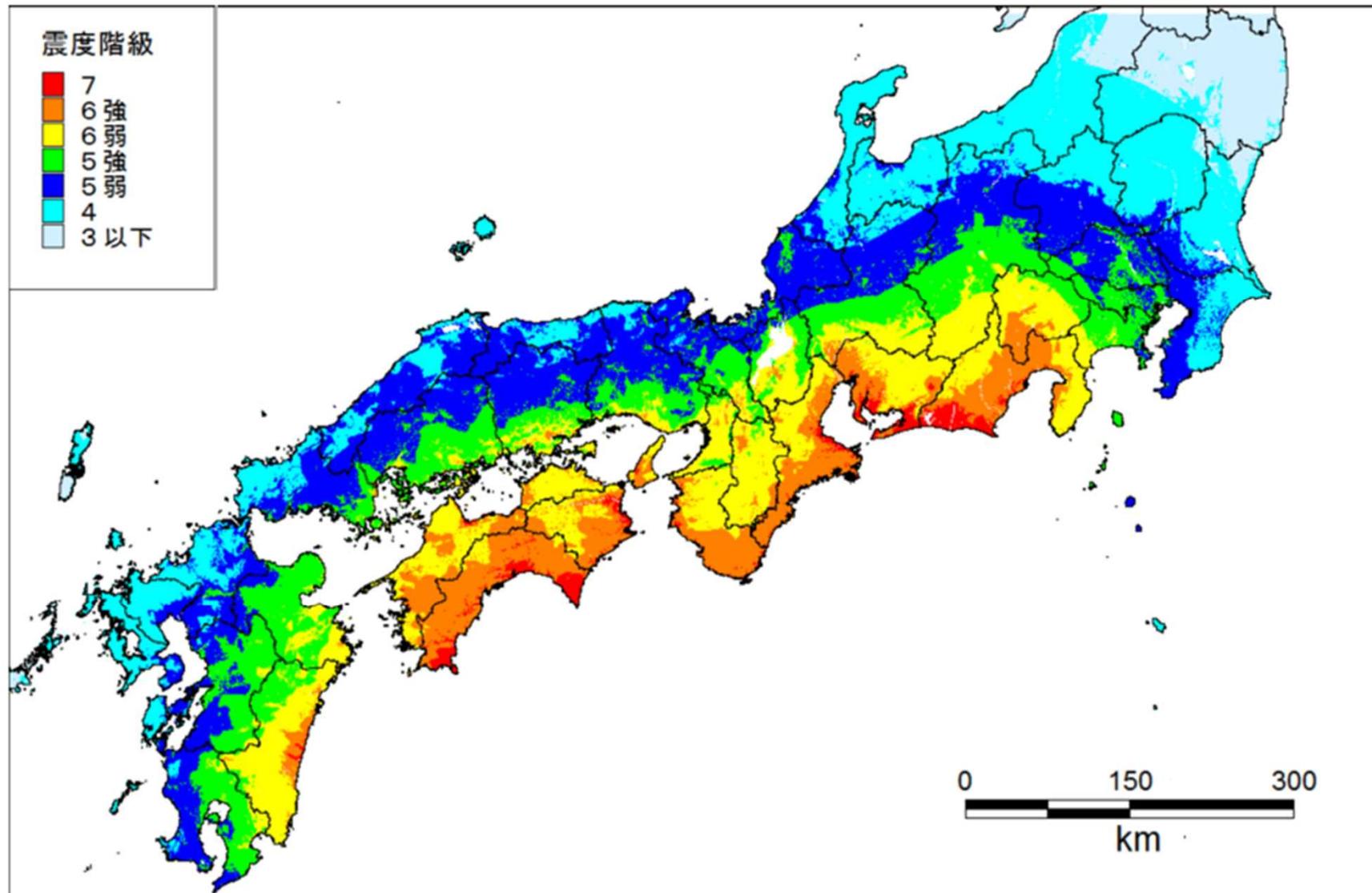
- 最新の地震からの経過率  $(t - t_{last})/\bar{T}$  が1に近いor1以上
- $\bar{T}$ のばらつきが小さい(評価の時間幅の30年と比較して)

# 南海トラフ地震の想定最大震源域



	南海トラフの巨大地震 (強震断層域)	南海トラフの巨大地震 (津波断層域)	(参考) 2011年東北地方太平洋沖地震
面積	約11万km <sup>2</sup>	約14万km <sup>2</sup>	約10万km <sup>2</sup>
モーメントマグニチュードMw	9.0	9.1	9.0 (気象庁)

# 南海トラフ巨大地震の想定震度分布

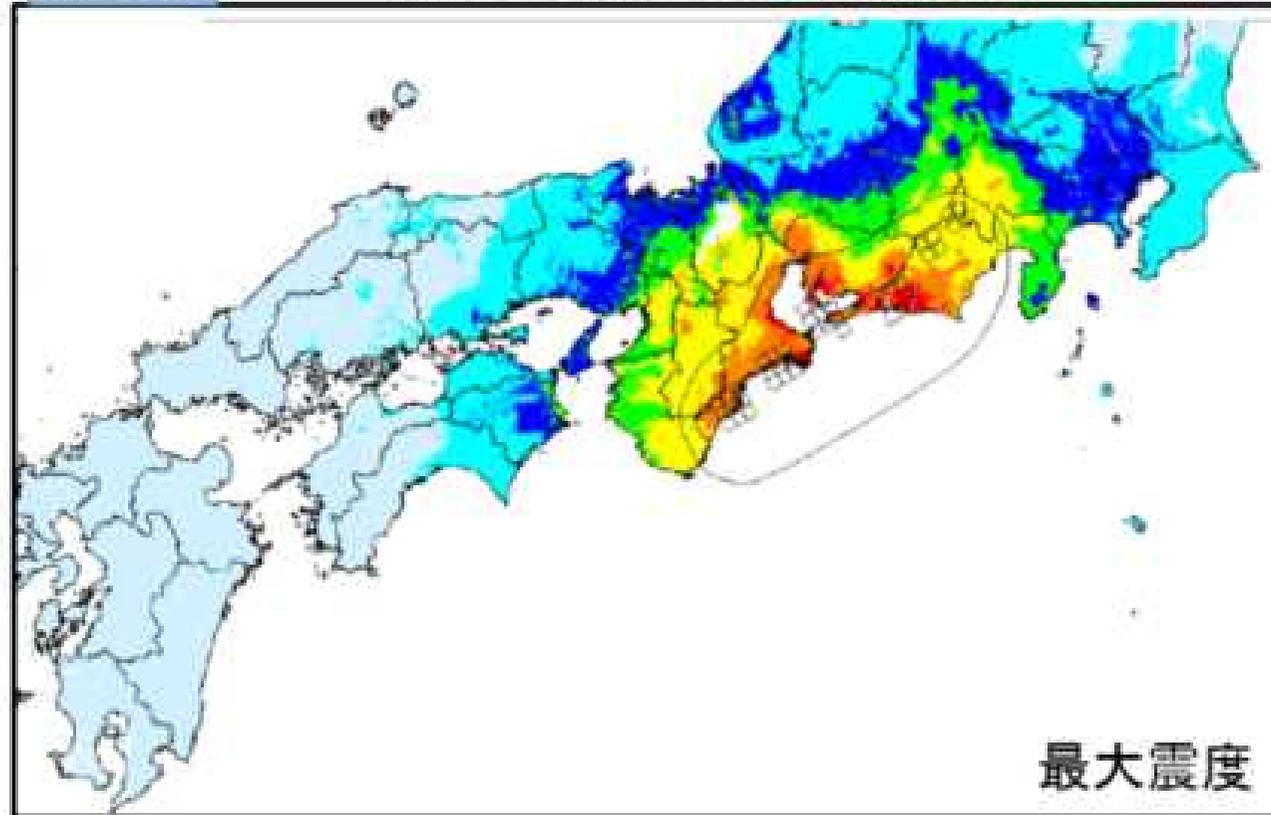


※強震波形4ケースと経験的手法の震度の最大値の分布  
(南海トラフ巨大地震対策について (最終報告) (内閣府) より)

# 南海トラフ東側破壊の想定震度分布

東側

東側で地震が発生した場合

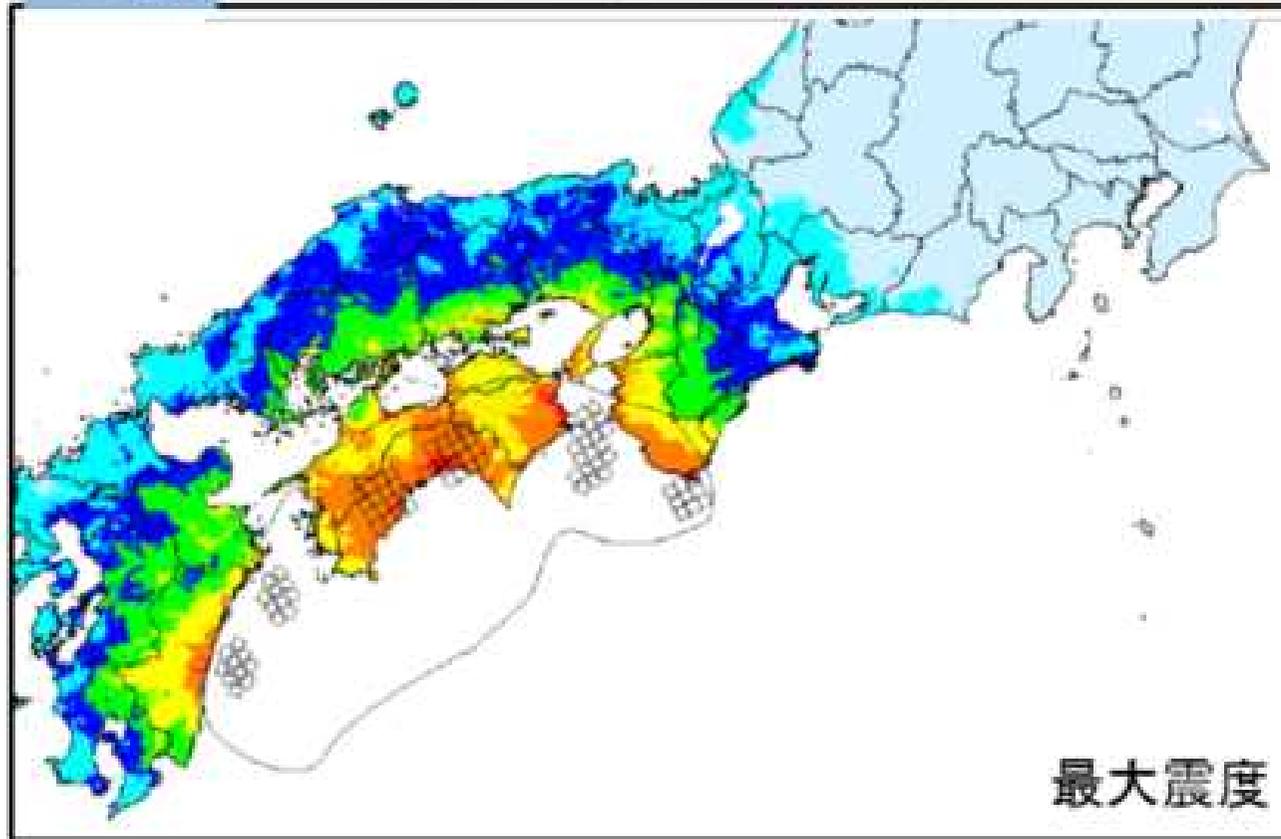


(南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン (内閣府) より)

# 南海トラフ西側破壊の想定震度分布

西側

西側で地震が発生した場合



震度階級



 : 震源域

 : そのうち特に強い地震動を発生させる領域

(南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン (内閣府) より)

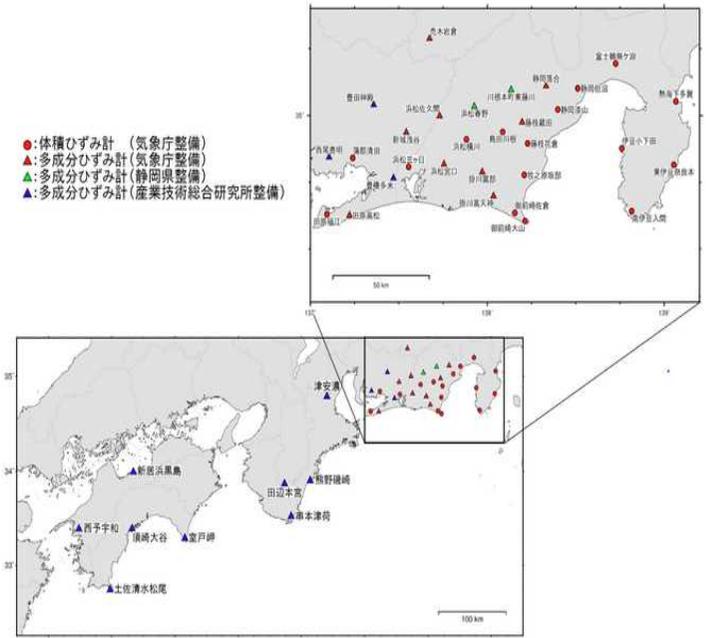
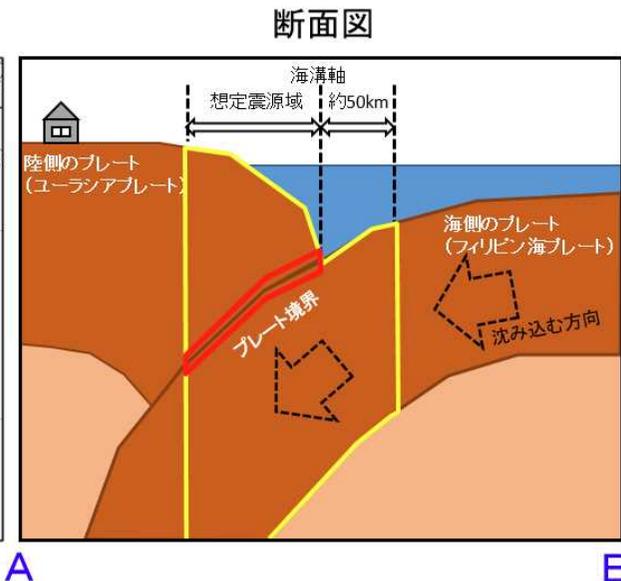
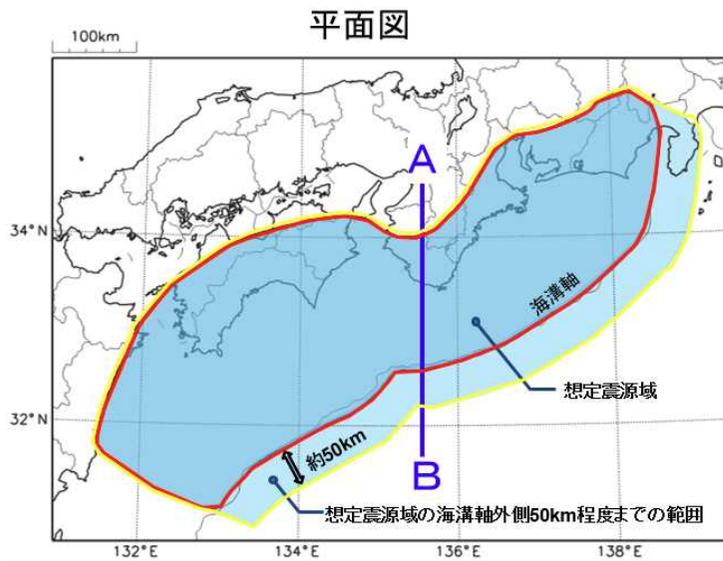
# 南海トラフ地震に関する情報

異常な現象

- 監視領域内で（気象庁）マグニチュード6.8以上の地震が発生
- 一か所以上のひずみ計での有意な変化が観測され、ほかの複数観測点でもそれ関係する変動が見られて、想定震源域内で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合</li> <li>● 観測された現象の調査結果を発表する場合</li> </ul>
南海トラフ地震関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観測された異常な現象の調査結果を発表したのちの状況の推移等を発表する場合</li> <li>● 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）</li> </ul>

## 監視領域



# 南海トラフ地震臨時情報

## 「南海トラフ地震臨時情報」発表時に付加されるキーワード

キーワード	付記する条件
調査中	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
巨大地震警戒	想定震源域内のプレート境界で、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>監視領域内でモーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合を除く）</li> <li>想定震源内のプレート境界で、通常とは異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合</li> </ul>
調査終了	（巨大地震警戒）（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらなないと評価した場合

異常な現象（M6.8以上の地震・条件を満たすひずみ計の変化）

### 南海トラフ地震臨時情報（調査中）



南海トラフ地震臨時情報  
（巨大地震警戒）

南海トラフ地震臨時情報  
（巨大地震注意）

南海トラフ地震臨時情報  
（調査終了）

# 南海トラフ地震臨時情報発表時の対応(京都府)

## 巨大地震警戒

## 巨大地震注意

最初の1週間



日頃からの地震への備えを再確認する等警戒のレベルを上げて生活。

1週間後から  
2週間後

日頃からの地震への備えを再確認する等警戒のレベルを上げて生活。



2週間後以降

大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。

## 本日の内容

1. 京都府周辺の地震活動
2. 内陸で地震が発生した場合に気象庁が発表する情報
3. 京都府北部日本海沿岸における津波
4. 南海トラフ沿いの巨大地震
5. **命を守るための対応**

# 命を守る鍵!! 事前の備え



## ■ 命を守るために

家屋耐震化、家具・家電の固定、出火・延焼を防ぐ防火対策

## ■ 避難するために（地域を知る）

避難所・避難経路確認、地域の危険度把握



## ■ 情報入手するために

携帯電話・スマートフォン（充電器）、携帯ラジオなどの準備



## ■ コミュニケーション

家族の集合場所・安否確認方法の確認（災害用伝言ダイヤル・災害用伝言版）、防災訓練への参加

## ■ 生き抜くために

非常用持ち出し品と備蓄品の備え



# 地震時の行動



## ■ まずは強い揺れから身を守る

- ・ 揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きした時は第一に身の安全を確保する。
- ・ 「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に移動する。日頃から安全な場所を確認。
- ・ 幼児や高齢者、障害者の行動をサポート。

## ■ 高層階での注意点

- ・ 高層階では揺れが数分間続く
- ・ 大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下、大きく移動する。



# 揺れが収まってからの行動

## ■津波からの避難（海岸付近）

私だけは大丈夫だと思わない（正常化の偏見）

## ■落ち着いて火の元確認、初期消火

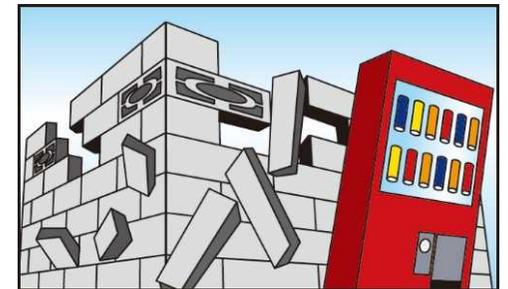
ブレーカーを落とす ガスの元栓を閉める

## ■窓や戸を開け出口を確保

## ■転倒・落下した家具類やガラスの破片等に注意

## ■窓ガラスや看板が落下するので慌てて外に飛び出さない

## ■ブロック塀等には近寄らない



# 地震後の行動

## ■ 避難は避難場所だけとは限らない

自宅が安全な場合は在宅避難

## ■ 正しい情報の入手と適切な行動

テレビ・ラジオ、スマートフォン（含む充電器）、防災行政無線等により、気象台や行政等から生活情報、地震情報などを入手

## ■ 地域での助け合い

自宅安全確認、近隣の安否確認、救出・救護活動

## ■ 引き続き地震活動への注意

## ■ 復旧・復興、生活再建



ご清聴ありがとうございました